

第211話 口誦文芸③ 「替女説地震身上」 その3 中山町 歴史散策

「替女説地震身上」の前号の続きです。

称宜^{ねぎ}の社家^{しゃけ}じやの神主なども、神のみ末と身は高ぶれど富をするやらあやぶるかぶき、やましずめて山事^{とう}斗り祈禱神楽も銭から極め、それが神慮^{もた}にかなうかしらんわけで、小憎い医者衆でござる、隣村も馬かかご持せ、しれぬ病を呑み込み、顔に少し容態悪しと見れば、人にゆずりて己ははずし、匙の先より口先上手、素人だましの手柄を話し、金匡要略傷寒論も、若い時分に習うた斗り、たまに取り出しふくしてみれば、闇のからすでわからぬ故に、聞かずさわらず薬の数を、たとと飲ませて衣服をかざり、礼の多少で病氣扱い、病家見舞も受けむけ立てて、裏家せと家八十日に一度、金になるのは毎日四・五度、されば医者衆の掟^{おきて}というのは、銭や金にハかかわるまじく、人を救うハ教へのもとと、道の戒め守らぬ款ハ、欲が深うて文盲故ぞ、あまねく夫^そを見習ふて、近頃^{まご}迫上下もんで廿四文が通用なるを、何時のほどにか何処の町も、こぞつて八文ましたる代り、力いらずに手拍子斗り、少し長いと仲間の憎む

次号に続く

【語句の説明】

称宜…神社で、宮司・権宮司を補佐する職。また、一般に神職の総称。
社家…代々特定の神社の祭祀を世襲してきた家のこと。
神慮…神のみこころ。神の思召し。

※引用 中山町史 中巻

第10章第3節

文芸と美術工芸

私たち地域おこし協力隊です！ No.77

皆さん、こんにちは。地域おこし協力隊の高橋です。

気づけば地域おこし協力隊としての活動も残すところ、1か月半となりました。つい最近中山町に引っ越してきたような気がするのですが、あっという間に3年が過ぎようとしていて、年々時間の経過が速く感じます。

さて、最近、「非通知設定」や「海外からの着信」に関する相談が増えています。私自身も海外からの着信が多く、不審な目的でかけられている可能性が高いと感じています。こうした電話に出してしまうと、思わぬトラブルに巻き込まれる恐れがあるため、注意が必要です。

もし心当たりのない番号から着信があった場合は、焦らず、無理に出る必要はありません。非通知や海外番号の着信は無視し、必要に応じて迷惑電話対策を活用しましょう。安心してスマホを利用するためには、自分のスマホをしっかりと管理することが大切です。気になることや不安がございましたら、ぜひスマホよろず相談所にお越しください。

スマホよろず相談所

月・水・金(午前10時～正午 中央公民館 / 午後1時30分～4時30分 〇っと)

●協力隊への問い合わせ先● 高橋 ☎662-2223 (総務広報課)



高橋 圭哉

出身地：宮城県岩沼市
趣味：けん玉、
アニメ鑑賞

